

道路の課題やニーズ等に関する 意見聴取、意見交換

目次

1	背景	P3
2	これまでの道路施策	P7
3	意見聴取、意見交換	P10

1. 背景

静岡県における道路事業

- 県の道路予算は、新たな道路整備(バイパス・道路拡幅)だけでなく、維持管理や国事業への負担金などで構成されており、様々なニーズ・課題に対応

道路改築事業



新たなバイパスや狭あいな道路の拡幅など

直轄負担金



国が進める広域的道路整備への費用負担

防災・災害復旧事業



災害復旧や災害を未然に防ぐ道路防災対策

交通安全事業



歩道の整備や防護柵の設置による安全対策

道路維持事業



道路の機能を維持するための日常管理

その他



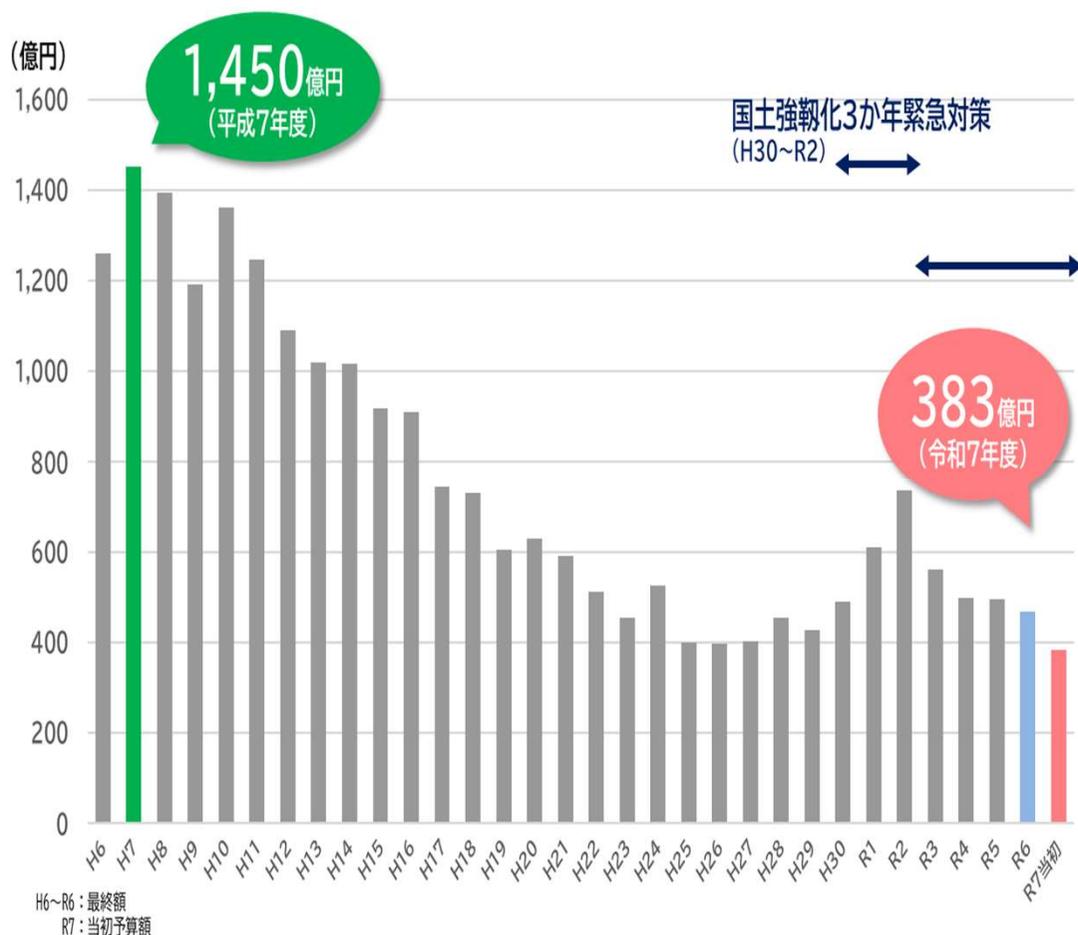
道路管理に不可欠な台帳の整備

1. 背景

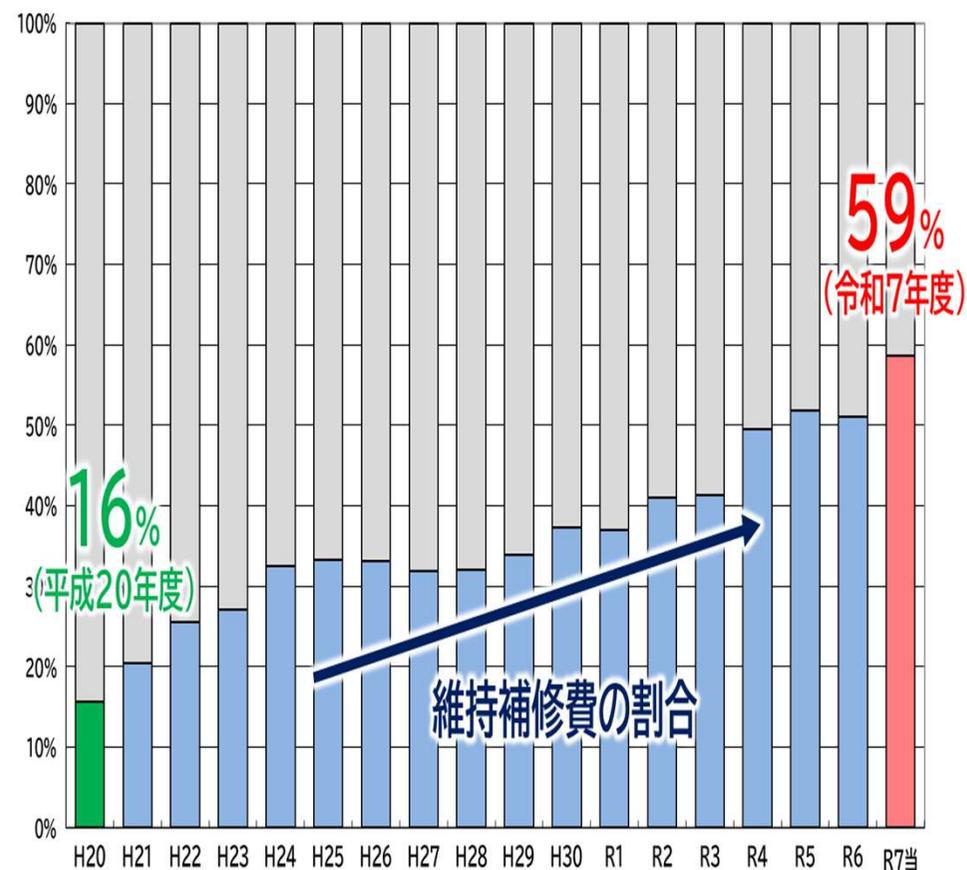
静岡県道路予算の状況

- 県道路予算は、383億円であり、ピーク時から約1/4程度まで減少
- 新たな道路整備に必要な道路改築費が減少し、維持管理費の割合が増加

静岡県道路予算の推移



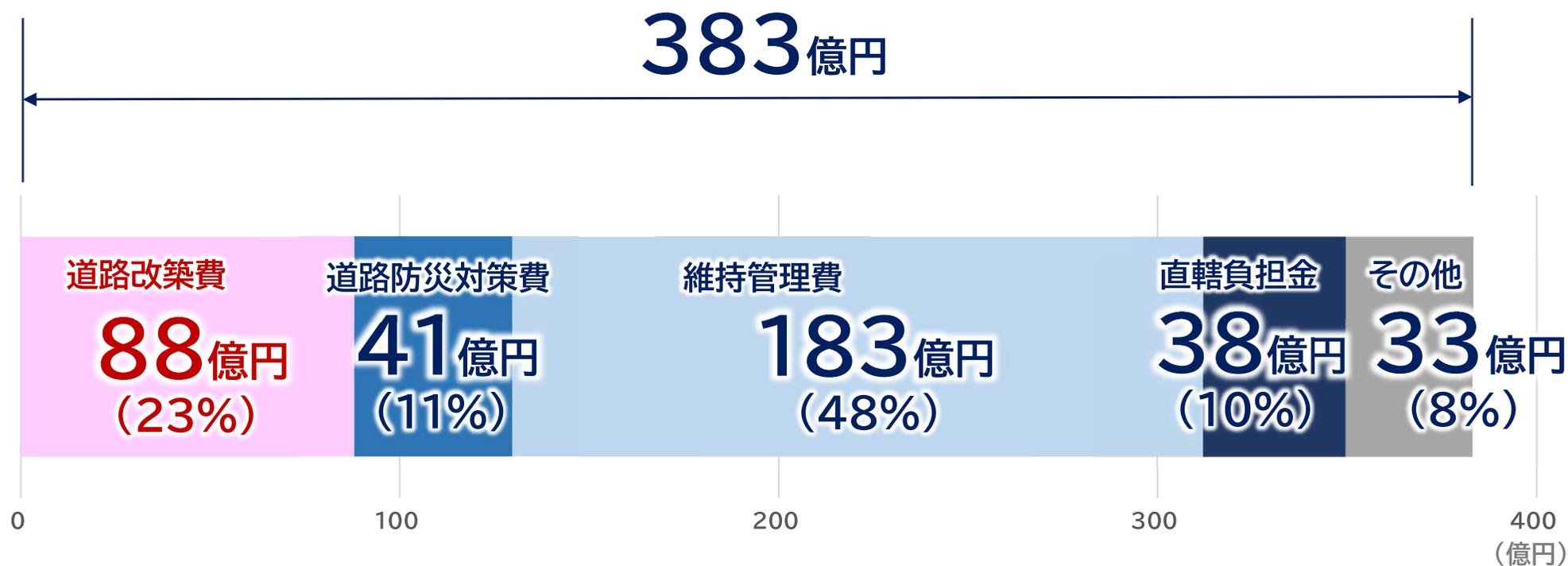
道路予算に占める維持管理費割合の推移



1. 背景

静岡県道路予算の状況

- 2025年度予算のうち、維持管理に必要な経費や国事業への負担金など優先すべき経費が約8割を占め、残りの2割で新たな道路整備・既存道路の改良を実施



道路改築費：道路改築・交通安全対策

道路防災対策費：橋梁耐震対策・道路法面对策 等

維持管理費：舗装補修・長寿命化対策

直轄負担金：国が行う公共事業について、費用の一部を当該地方自治体が負担するもの

その他：政令市交付金 等

1. 背景

取組方針（ふじのくにのみちづくり）

- 広域的道路ネットワークの形成や、維持管理費を優先的に確保し、事業の選択と集中を徹底
- インフラのストック効果を最大限発揮できるよう 活用(いかす)、保全(まもる)、整備(つくる) のバランスをとった「道路マネジメント」を推進

県民ニーズ

- 社会情勢や価値観の変化、ニーズの多様化により、県に寄せられる道路に関する意見は、増加傾向
- 限られた予算の中、地域のニーズを的確に捉え、効果の高い道路整備が必要

県に寄せられた道路に関する県民意見



⇒ 地域のニーズを的確に捉えた効果の高い道路整備を推進

2. これまでの道路施策 令和7年度新規事業 (2025)

命と暮らしを守る道路緊急対策事業

- 近年の地震や激甚化する豪雨により、観光客の孤立や大規模冠水、公共交通の運休等による帰宅困難者、道路管理瑕疵につながる事案が発生
- 迅速な避難や円滑な受援に寄与する、局所的な道路拡幅などの道路環境整備

考え方

迅速な避難・円滑な受援

- 災害発生時の交通混乱を防ぐ道路の円滑化対策や交通マネジメント

安全な避難・帰宅環境の確保

- 避難所への安全な避難や帰宅困難者の発生を軽減する安全な移動空間の確保

被害を軽減する施設管理

- 災害を防止・軽減する道路施設の予防的な施設管理や機能向上

対応

迅速な避難・円滑な受援

- 局所的な道路拡幅
- 道路案内の適正化 ほか



安全な避難・帰宅環境の確保

- 歩行者空間整備
- 自転車通行空間整備 他



被害を軽減する施設管理

- 災害の未然防止(伐木・伐採)
- 排水施設の機能向上 他



2. これまでの道路施策 令和6年度事業 (2023-2024)

“人・地域をつなぐ道”緊急対策事業

- ライフスタイルの多様化や地方回帰の流れの加速化により、観光や移動・交流に対するニーズが変化
- 「選ばれる」地域づくりに向け、安全な移動空間などの道路環境整備

現
状

移動ニーズの変化

- コロナ禍により、密を避ける徒歩・自転車による移動ニーズが増加
- 一方で、本県の交通事故発生割合は、依然として高い

観光ニーズの変化

- 大量消費型のマストツーリズムから地域の魅力を再発見するマイクロツーリズムのニーズが増加
- コロナ禍で落ち込んだ観光消費・交流客数がV字回復

働き方・暮らし方の変化

- コロナ禍によるテレワークの浸透により「新しい働き方・暮らし方」が定着
- 地方回帰の流れが加速化し、本県への移住者・移住相談件数が増加

対
応

移動ニーズ変化への対応

- 安心して移動・交流できる環境整備



観光ニーズ変化への対応

- 地域の個性・魅力の向上
- 修景改善やサイクリング環境の整備など、景観形成や道路環境を活かした地域の磨き上げ



地方回帰への対応

- 地域の交流促進を促すため、地域の拠点へのアクセスや案内を改善
- 安心して地域を訪問できる環境整備



2. これまでの道路施策 令和5年度以前

生活に身近な道路対策

- 県では、2001年度から身近な道路における課題解決に向け、交通の円滑化や歩行空間の確保など、即効性のある道路整備を実施

年度	主な出来事・社会課題	主な視点	主な対策内容	事業名
2001		交通円滑化対策	・ 交差点改良	交通円滑化緊急対策
⋮		⋮	⋮	⋮
2015 2016	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沼津市内で通学児童を巻き込む交通事故 ・ 災害の激甚化 	通学路の安全対策 孤立地域の発生防止	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩行空間整備 ・ 道路防災対策 	安全・安心緊急道路対策
2017 2018	<ul style="list-style-type: none"> ・ オリンピック自転車競技の県内開催決定 	歩行者の安全対策 サイクリング環境整備 美しい景観づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩行空間整備 ・ 側溝改修 ・ 修景伐採 	「安全・快適の道」緊急対策
2019 2020	<ul style="list-style-type: none"> ・ 菊川市内で通学児童を巻き込む交通事故 ・ オリンピック開催(自転車競技) ・ 県西部地域で台風による大規模停電が発生 	歩行者の安全対策 サイクリング環境整備 停電対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩行空間整備 ・ 側溝改修 ・ 転落防止 ・ 法面对策 ・ 予防伐採 	「暮らしを守る道」緊急対策事業
2021 2022	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルスの蔓延 	通勤・通学路の移動空間の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩行空間整備 ・ 自転車走行空間整備 ・ 沿道防草対策 	「新しい生活様式」に対応した道路環境整備事業

3. 意見聴取、意見交換 参考 これまでの道路施策

道路を取り巻く環境の変化（抜粋）

- 道路関係予算の減少
- 人口減少・少子高齢化
- 円安の進行・物価高騰
- 脱炭素社会(カーボンニュートラル)の実現
- アフターコロナ(働き方の変化)
- 訪日観光客の回復・増加
- インフラ老朽化の加速
- 自然災害の更なる激甚化・頻発化
- 能登半島地震を踏まえた防災対応
- 頻発する交通事故
- DX・AI分野の急速な進展

道路施策メニュー（代表的なものを例示）

- 高規格道路・バイパスの整備
- 渋滞対策
- 狭あい区間の拡幅
- 歩行空間の整備
- 自転車通行空間の整備
- 道路空間の再配分・ほこみち
- 耐震対策(橋梁など)
- 法面对策
- 予防保全(維持補修)
- 冠水対策
- 道路の適切な維持管理(除草・伐木)

3. 意見聴取、意見交換

- 引き続き、地域の課題やニーズに対応した道路施策の実施、道路の整備が求められている
- 今後の新たな道路施策の立案・検討を行うため、多角的な視点から忌憚のない御意見をいただきたい

意見聴取、意見交換の視点・観点

- 道路を利用して気になること
- こんな道路があったらいいなという視点
- 現在の道路施策等に対する不満・改善点
- 道路局から利用者への質問